

## The 3rd Asia-Pacific Conference on Coaching Science 2018

森嶋 修

2018年10月24日から25日までの2日間、The 3rd Asia-Pacific Conference on Coaching Science 2018がソウルにある韓国体育大学にて開催された。スポーツ科学研究所からは、久保潤二郎准教授、西村三郎講師、森嶋修助教の3名が学会に参加し、ポスタープレゼンテーションを行った。日本を出発する23日、学内に設置されている大判プリンターが故障しポスターが印刷できないというハプニングに見舞われたものの、西村講師の積み重ねられた人脈によって、なんとか韓国の地へ向けて飛び立つことができた。この時点ですでに、学会は無事に終わったと思わせるほどの安堵と達成感を感じたのは私だけではないはずである。

学会は24日の午後から始まり、招待講演が行われた。この講演では、日本、中国、台湾、シンガポール、韓国それぞれのコーチ育成について話を聴くことができ、各国が取り組んでいる活動や、抱えている問題点を聴くことができた。

25日は午前中にオーラルプレゼンテーションが3教室に分かれて開催され、午後からポスタープレゼンテーションが開催された。ポスタープレゼン

テーションで設けられた時間は60分間、発表題数は49題であった。多くの日本人研究者が参加していたものの、国際学会であるため当然のごとくポスターの内容は説明や質疑応答も英語を用いて行われた。私の隣でポスターを掲示していたMing-Choo Yen氏は台湾から来ている研究者であった。Yen氏を観察していると手持ち無沙汰が見て取れたため、「私のポスターを説明します」と私が突然切り込み、頼まれてもないポスター発表を氏に行ってみた。私の英語力の低さも重なり、氏は説明の途中から上の空であったが、発表を最後まで行うことができた。その後、氏の発表を聴かない訳にもいかず、ウォーミングアップと心拍数に関する研究を10分弱聴くことになった。

今回初めて国際学会へ参加し感じたことは、自分の研究に自信を持って世界へ発信することが大切ということである。2019年の11月には東京でもコーチングに関する国際学会が開催される。この学会にもチャレンジし、自分の研究を堂々と世界へ向けて発信し、研究者としての礎をコツコツと築いていきたいと胸に秘めている。

